

善光島のきつね



昭和六十年三月五日号

善光島（今の荒田島二丁目付近）のお宮さんは、昔、狐がでたという言い伝えがありました。

人と動物の交わりはいろいろなエピソードを生み出します。動物とのほのぼのとした結びつきは、ほほ笑ましいものです。今回は、善光島の狐というお話です。

お札にちようちんをかざす

昔の津田村は、家は飛び飛びで、道は狭く、それに木が生い茂っていました。吉原二丁目を寺町といったところ、津田村の百姓がお祭りですしをつくったので、重箱に入れて、寺町

の親戚へ持っていこうとしました。

そして、善光島のお宮さんのところへくると、重箱が重くなったり、軽くなったりしました。

善光島のお宮さんは、木が生い茂った森で、昔から狐がでるといいうわさでした。「はてな



善光島のお宮さん

「狐のしわざかな。」と思いましたが、きみが悪いので急いで寺町の家にいきました。

寺町の家について重箱をあけると油揚げのおすしが一つもありません。

狐にとられてしまったのでした。

夜になってお宮さんの前を通るとごちそうになったお礼のつもりか、狐たちがちようちんに火をつけて、お宮さんのまわりを昼間のように明るくしていたそうです。

寂しい場所だったね

高井進さん（荒田島町）

荒田島町に住む高井進さんは、「だれだかが、化かされて田んぼの中を歩かされたという話を聞いたことがあるね。とにかく寂しい所で夜なんか一人で歩けなかつたね。」と語ってく

れました。

